会議結果報告書

１　会議名	ごみ処理に関する課題についての意見交換会（コスモ茅ヶ崎プレシオ自治会）
２　日時	平成 30 年 12 月 15 日（土）19：00～20：30
３　場所	コスモプレシオ茅ヶ崎集会室
４　出席者	（資源循環課）森岡担当主査、永井主任 （環境事業センター）尾坂主幹、鈴木主事 （コスモ茅ヶ崎プレシオ自治会）参加人数：9 人
５　内容	本市のごみ処理に関する課題について意見交換会を実施した。会議の主な質問と意見は次のとおりであった。 ●問題、課題、解決の順に説明があるべきで、各説明が不十分と感じる。課題の説明が最初にくるため、内容が分かりづらい。また、それぞれの数値目標が曖昧である。 →今回は、３つの課題についてお話させていただき、課題解決の取組みとして、様々な施策を考えていることを、来年度の方針決定の前に、お伝えさせていただいた。各課題の数値目標は資料からは読み取ることはできないが、課題解決に向けた取組みにより、少しでもごみを減量させていただきたいと考えている。 ●ごみ有料化で得た財源を、戸別収集でほとんど使い切ってしまうのではないか。財源確保が重要であるならば、２つの施策をセットで説明すると矛盾を感じてしまう。ごみ有料化で得た財源の使途は明確にすべきではないか。 →有料化と戸別収集については、あくまでもごみの減量化に資する取組みのひとつであり、別々の施策として検討してるところである。施設整備にかかる費用等を考えると、戸別収集については、その費用が実施の可否を判断するポイントになると考えている。有料化で得た収入はごみ処理経費の一部に充てていきたいと考える。 ●ごみの有料化を既に実施している先行市ではどれぐらいの期間を経て実施に至ったのか。決まっているのであれば、早く実施するべきであり、このような意見交換会は時間の無駄ではないか。 →先行市によって様々な期間を要しているが、茅ヶ崎市ではこのような意見交換の場を多く設けていきたいと考えている。皆様の生活に深く関わるごみ処理に関することだからこそ、来年度の方針決定の前に、ご意見等をいただきたいと考え、このような場を設けさせていただいている。 ●家庭から排出される燃やせるごみの内、資源化可能なものを合計すると、25%が不摘出排出とのことだが、先行市では、有料化実施後、その数値は改善されたか。 →ごみの有料化を実施することにより、経済的インセンティブが働くため、適切なごみの排出に繋がることは、先行市でも実証されている。一方で、資源物については、有料化の対象としていない。 ●プラスチック製容器包装類の収集日が週に１回しかないため、燃やせるごみに混ぜ

	てしまう人がいるのではないか。また、ごみと資源物の分け方・出し方は、毎年発行しているようだが、変更点がないのであれば、毎年作成する必要がないのではないか。 ●マンションのディスポーザーが有効なのであれば、それを推進する仕組みが必要ではないか。 →生ごみの削減に資する有効な方法と認識しているが、補助金などを活用して推進することは、今のところ考えていない。 ●不法投棄対策はだれが行うのか。 →県・市職員や警察、ボランティア等により行うが、地域の皆様の協力も必要であると考える。 ●それぞれの施策について、かかる経費が資料に記載されていないため、判断しようがない。議会答弁ではないので、持っている情報は確定していなくても、伝えてほしい。意見交換会として成り立っていない。 →来年度の方針決定に向けて、経費については調査しているところである。今後何かしらの方法で調査した経費等については、皆様にお示しさせていただく予定である。その時には、より具体的な話ができると考えている。 以上